

京都に伝わる民俗芸能の「現在」を知る。

# 民俗芸能の交流サロン

Folk performing arts Salon

令和6年(2024年)

# 11.3 日祝

## 14:00~16:30

開場・受付 13:30

### 京都芸術センター講堂

京都市中京区室町蛸薬師下る山伏山町546-2

参加無料 定員100名

## シンポジウムと実演

オープニング 京都鬼剣舞 演目「刀剣舞の狂い」

トーク 第一部 大江山伝説から紐解く和知太鼓と京都の民俗芸能  
京都郷土芸能「活性化してやろう」会 会長 浅野 高行

トーク 第二部 クロストーク Cross Talk  
テーマ① 郷土芸能を興すとは  
京都鬼剣舞庭元 伊東 睦子 × 和知太鼓名誉会員 藤本 吉利

テーマ② 繋ぐ=継承する。将来へのビジョン  
京都鬼剣舞 杉野達也・末永伸一郎 × 和知太鼓 野間理沙・中道雅揮

実演と体験 太鼓 太鼓の実演～太鼓体験 和知太鼓保存会  
鬼剣舞 演目「三番庭」他 京都鬼剣舞

興す・守る・繋ぐ

# 和知太鼓

# 京都鬼剣舞

主催：京都郷土芸能「活性化してやろう」会  
共催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス  
(京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会)  
協力：京都鬼剣舞・和知太鼓保存会

TARO  
伝統芸能文化創生プロジェクト

会場 Access 京都芸術センター KYOTO ART CENTER

〒604-8156  
京都市中京区室町蛸薬師下る山伏山町546-2  
TEL:075-213-1000 FAX:075-213-1004  
URL:https://www.kac.or.jp/

地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」  
22番・24番出口より徒歩5分。  
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



文化庁  
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

本事業は、令和6年度 文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施しています。

# 民俗芸能交流サロン

Folk performing arts Salon

## シンポジウムと実演

「民俗芸能交流サロン」は、京都郷土芸能「活性化してやろう」会が主催する会で、郷土芸能の未来の担い手育成および発掘へ向けて、各芸能団体が定期的に集い課題を共有できるように開催しています。今回は、「京都鬼剣舞」と「和知太鼓」を招いて課題を共有し、郷土芸能の成り立ちや今後の継承について探ります。また、実演もしていただきますので、その迫力ある演技にもご期待ください。

## 参加申込方法 Registration



京都郷土芸能「活性化してやろう」会  
**075-462-3414** /月～金10:00～17:00



khono@iris.eonet.ne.jp



申込みフォーム  
[www.imaami.com/salon/](http://www.imaami.com/salon/)



参加申込は、電話・メール・申込みフォームにて

申込みはコチラから

## 出演団体

### きょうと おに けん ばい 京都鬼剣舞

Kyoto Onikenbai

#### 京都鬼剣舞とは

鬼剣舞は岩手県を代表する民俗芸能の一つで、約1300年前に奈良の大峰山で役行者が踊ったものが山伏によって全国に広まり、岩手県北上地方に伝わったとされています。

現在、岩手県北上市には「岩崎鬼剣舞」を頂点として十数団体の踊り組があり、国の無形文化財やユネスコの無形文化遺産に登録されています。

京都鬼剣舞は、平成元年（1989年）から岩崎鬼剣舞に指導を受け、平成10年（1998年）に「印可（の証）」をいただいて踊り組を発足しました。平成24年（2012年）には巻物（秘伝書）をいただきました。

現在メンバーは20数名で、京都や京都近郊から集まり西陣小学校で練習しています。毎年、年に何回か岩手に通って修行を積みつつ「北上・みちのく芸能まつり」に出演するほか、京都・大阪・奈良などを中心に全国で奉納や公演を行っています。



### わ ち たい こ 和知太鼓

Wachi Taiko

#### 和知太鼓とは

京丹波町指定文化財（無形民俗文化財）和知太鼓の源流は、広野の藤ノ森神社の宮太鼓として伝承されてきた（広野太鼓と呼ばれていた）。

平安時代、時の帝の命を受けた源頼光が大江山の鬼退治に向かう途中、草尾峠の手前で豪雨に遭い、近く藤ノ森に雨宿りした。雨が上がり、いざ出陣という時、村人たちが頼光の武運を祈願し兵士の士気を鼓舞するために打ち鳴らした太鼓が起源であるとされています。

和知太鼓は、太鼓、太鼓一張に一人が地打ち、もう一人が大打ちという基本形があります。今日では横笛、締太鼓、鉦などを取り入れ、基本技法の中に打ち手の乱れ内を生かした勇壮なものとなり、和知を代表する伝統芸能として伝承されています。平成11年京都府自治功労賞受賞。各地での演奏活動の他、毎年8月には使えなくなったバチを「バチ供養」演奏として執り行っています。

また、和知小学校、和知中学校では授業の一貫として和知太鼓の伝承活動も行っています。

